



第120号

令和2年10月1日

鹿児島県文化協会

発行人 原口 泉
鹿児島市山下町 5-3
宝山ホール(県文化センター)内
TEL 099-223-3123



第31回いぶすきシルバー美術展
鹿児島県文化協会賞

「向日葵」川俣 律子 (霧島市)

文化の聖火とこしえに

鹿児島県文化協会 会長 原口 泉



文化は私たちに喜びと勇気と希望を与えてくれる心の栄養です。

COVID-19と自然災害の逆境の中、文化の灯を消してはなりません。昨年、県文化協会は五十周年を迎え、多彩な記念イベントを開催し、例年二回の県民文化フェスタも大勢の出演者と観客で賑わいました。今年は残念ながら中止のやむなきに至りましたが、来年、初の奄美大島開催となるフェスタに向けて取り組んでいます。

また、十月には鹿児島城にあった能舞台を偲んで当協会の加盟団体である「鹿児島謡曲連合会」が共催する能楽講演も予定されており、小・中学生による「子供仕舞」と「子供狂言」も披露されます。その他に、「県子ども劇場協議会」の演劇や、島唄とフラメンコなど舞踊と音楽、美術作品の映像など多彩な文化の配信などが予定されています。文芸に於いては、海音寺潮五郎

先生以来の直木賞を鹿児島県出身の川越宗一先生が受賞されました。

このように文化の灯が力強く郷土鹿児島を灯し続けており、文化こそがSDGsの未来社会への推進力だと確信しています。

国体も二〇二三年開催の方向が見えてきました。『やはらぐと怒るをいはば弓と筆 鳥にふたつのつばさとを知られ』と戦国時代の日新公いろは歌にありますように、文武両道は薩摩の伝統の教えです。

宮崎県の第三十五回全国国民文化祭は一年延期となりましたが、二〇一五年に鹿児島県で開催された第三十回国民文化祭が、広域で多様な鹿児島県の文化振興の起爆剤になったことが思い出されます。県民文化フェスタも国文祭の熱気をさらに受け継いだものです。お隣の宮崎県で全国の文化芸能が披露されますので、鹿児島県からも参加しましょう。来年開催する県民文化フェスタinあまみの成功が世界自然遺産の登録を引き寄せてくれることを願いつつ、また、二〇二三年夏に鹿児島で開催予定の全国高等学校総合文化祭でも鹿児島島の若人の文化力の開花が今から楽しみです。

コロナ禍の総会

副会長 永山 作二



人間って弱いものです。世界中がコロナというウイルスに襲われ、死者も多数出ています。孫子の兵法の書に『彼を知り、己を知れば百戦危うからず』という格言があります。コロナウイルスから人類を守るためには、このウイルスの遺伝子学的特徴等の生態精査を調査研究し、新型コロナウイルスを知り尽くす事ではないのでしょうか。一般的にはウイルスは寒さに強く暑さには弱いのでインフルエンザは冬場に流行します。この暑熱の暑さでは衰えなければいけないのですが、例年より気温の高い今年の夏場でも、衰える気配はありません。ウイルスの正体を暴くために、世界中の研究者たちは、治療薬やワクチンの開発に励んでいます。

鹿児島県でもコロナ対策はだんだんと無視できない状況となり、県文化協会三部会をはじめ、三役会等も三密に

ならない様に、窓を開け消毒薬を設けソーシャルディスタンスを十分に保ちながら、会議を開催して参りました。十分な予防対策のお蔭様で、会議時間もできるだけ簡明に短縮していただくにご協力をお願いし、順調に推移して来ました。三月、四月の定例理事会も事務局態勢など重要会則等も無事には議決をいただきました。理事会以前までは総会、シンポジウム、交流会等開催できる予定で全てを準備し進めていました。コロナウイルス感染はますます厳しい状況となり、交流会を中止し、次にはシンポジウムも諦めねばならない事になりました。短時間に簡略的でも総会だけは開催する事を最後まで願っていたのですが、コロナ禍の社会情勢はそれを許してくれませんでした。結果的には理事会で書面での議決権行使を実施する事を決議していただきました。初めての体験ではありますが、規約関係に詳しい役員のご指導を受けながら進めて行きました。

四月中旬に原口会長名にて各地区文化協会会長、各種文化団体長宛に、令和二年第五一回総会にかかる議決権行使についてお願いの文書を発送しました。第一号議案より第五号議案までに

鹿児島県文化協会令和2年度総会
議決権行使結果表

令和2年6月2日

議案	有効賛成数	無効数	反対数	備考
第1号議案	68	10	0	
第2号議案	67	10	0	記入なし 1
第3号議案	68	10	0	
第4号議案	68	10	0	
第5号議案	68	10	0	

送付総数 89 通のうち

無効数 10 通

賛成の意思表示はあるが押印がないもの 2通

5月26日以降に届いたもの 8通

有効総数 68 通

棄権総数 11 通

総会資料を添付し賛否のご返答をお願い致しました。それに総会資料内容について、県文化協会への諸事に関して、ご意見ご要望等をお寄せいただく様にお願いたしました。令和二年五月二五日必着とし、総数八九通を送付しました。二五日までの受け取り分が六八通で、必着期日以降の受け取り分（いわゆる無効数）が八通で、押印がないもの二通も無効となり、無効総数は十通でした。送付総数より有効返信総数を引いた十一通が棄権総数となりました。有効総数のほとんどが賛成として

の返答でしたが、二号議案決算報告に對して無記入がありました。赤字決算であり至極当然な事ながらのささやかな抵抗かと、返信者の気持ちを察する思いが残りました。この結果を各理事へ書面決議のために会長名にて發送し、理事全員の承認をいただきまし。これにより議決権行使書面による採決は成立した事を、各地区会長、各種文化団体長へ会長名で報告し、令和二年鹿兒島県文化協会総会は成立しました。役員側としてみれば無事に終了したものの、全く味気ない空虚感を

感じるものが残りました。やはり総会は会員の皆様の生の意見を聞き、討論を交わせながら意思疎通を図る事であると、生の意見交換の大切さをつくづく感じさせられました。楽しみにしていた交流会も中止となり、コロナ禍の総会は寂しい総会となってしまいました。七月末に予定されていた県民文化フェスタin伊佐は、四月の第三回理事会において中止が決定されました。また十月初旬に開催を予定していた県民文化フェスタinかごしまは令和三年一月末に日延べし、開催準備を進めていりましたが、新型コロナウイルス感染状況は鹿兒島県でも感染者が出始めた為に、社会情勢も鑑み七月の三役会で中止の方向で協議をし持ちまわり理事会で決定のあと、会員への連絡を行いました。新型コロナウイルスは一体どのようにして人間社会へ感染して来たのでしょうか。中国の武漢より感染が広がってきたと言われています。野生動物から感染して来たともいわれ、また人が作出した軍事目的や、ロシアが高齢者医療削減に作り出したとか、様々なデマや中傷も飛び交っています。自然界に普通に存在していたものが、病的に変化してくるには、社会調和が乱れ互いの免疫機構が乱れてしまった事が考えられます。

私たちの先祖は古来より『豊芦原千五百秋瑞穂国』と言われています様に、豊かな葦の河原の近くに、たわわに実った黄金色の稲穂が美しい国、それが大和の国日本でありました。古い時代より日本という国は、田畑を中心とした農耕を中心にした民族でした。その為に自然を恐れ敬い、災害をできるだけ少なくしようと、自然を崇拜する宗教が芽生え継承されています。田植え時期には田の神サーアや内神サーに早苗を供え、病虫害などに合わない様なく、また台風被害などに合わない様に、秋の豊作を祈りました。稲刈り時期には、集落の鎮守の森で豊年祭が開催され、豊作に感謝しました。豊年（ホゼ）相撲や棒踊りなど、郷土芸能が披露され鎮守の森は、老若男女お祭り賑わいました。またそこから農耕民族の日本文化の発祥もあったのだと考えられます。自然を敬い、感謝する自然崇拜宗教により、今日までの日本国民の歴史が形成されて来ています。コロナ禍社会で考えられる事は、これからは日本はもろんの事、全世界的にも環境問題を、そして文化面の大切さを、考える時代に来ているのではないか。その事を人間界に暗示しているのではと、つくづく考えさせられるコロナ禍の総会でした。

天城町文化協会

天城町子宝六調バンド

本町の文化協会には子どもだけで結成されている団体が三団体ある。そのうちの「天城町子宝六調バンド」について紹介する。

現在小学一年生が五名、小学校二年生が二名、小学三年生が五名、小学四年生が二名、小学五年生が一名、小学六年生が二名、中学二年生が一名の男女十八名で結成されている。

練習は毎週土曜日の午後四時から五時までの一時間を充てている。

結成されたのが平成十八年。ちょうど天城町が出生率全国第二位になったのをきっかけに、「天城町子宝地域づくり推進委員会」が設立され、その活動の一環として保険福祉課の依頼によって公民館講座として活動を開始した。当時子どもたちにも鳥唄・三味線への関心が高まり、二十名ほどであった。

平成二十四年九月には、全国子ども民俗芸能大会の九州沖縄ブロック代表として、十七人の子どもたちが東京の青山青年会



館で鳥唄・三味線を披露している。また、全国少年少女民謡大会では、二人が全国一に輝いている。他にも十名前後の十位以内入賞者も出している。

現在の子どもたちも全国大会を目指して練習に励んでいるところである。

活動範囲は広く、町の行事やイベント、集落や学校行事等にも積極的に出演して腕を磨いている。

さらに、鳥唄・島口や伝統芸能の継承にも一役かっている天城町の誇る活動の一つでもある。

燃える地域文化

八月踊り保存会

宇検村文化協会は文化団体が三団体、公民館講座が十二講座あり八四三名が活動しています

宇検村の人口は、一七〇〇名十四の集落から成り立っています。

文化団体の一つで湯湾集落の「八月踊り保存会」について紹介します。

集落の人口は四六〇名で村内人口の四割強が集まり公共機関も地域内にあります。旧暦の八月十五日に五穀豊穣を感謝し、昼間は奉納相撲を子供から青年団まで熱戦を披露します。日が暮れる頃から「八月踊り」が始まります。場所を集落の広場に移して夜通し踊り明かします。

しかし、近年は少子高齢化の影響で以前のように活気がなくなってきたので危機感を感じ、平成二十二年に集落民全員が保存会員になり立ち上げました。本番の三ヶ月前より週一回先輩方を中心に練習をしています。お陰様で少しずつ若い人も増え活気が出てきました。

今年は新型コロナウイルスの影響で控

えています。これからも伝統文化を継承していきます。



芦検民謡保存会



湯湾八月踊り保存会



須古鎌踊り保存会

宇検村文化協会

指宿市文化協会

いぶすきシルバー美術展

第三十一回いぶすきシルバー美術展は、八月三日から十八日までの十六日間の開催予定でしたが、指宿市内の医療機関における新型コロナウイルス感染症の集団感染を受け、八月十五日で終了となりました。

美術展の開催に当たっては、アルコール消毒・検温・マスク着用・入館者カードの記入・入館制限など感染防止対策を十分に講じました。

会期を短縮することとなりましたが、コロナ禍で様々なイベントが中止になる中、シルバー世代の方々が芸術に親しみ、生きがいづくりとなっていることを鑑み、また鑑賞される方が素晴らしい作品に出会い、明るく気持ちになっていただきたいと思います。

第31回最優秀賞「収穫」
上村律子（指宿市）



この考えから、開催することに決定いたしました。

展示が中止となる場合を想定して、今年のパンフレットは全ての作品を掲載し、また出品者の想いも添え、より作品をお楽しみいただけるようにしました。コロナ禍での開催でしたが、「文化力」により地域全体を元気にする機会となりました。



受付での新型コロナウイルス感染症防止対策



会場内の様子
(指宿市考古博物館)

燃える地域文化

市来支部

いちき串木野市文化協会の、市来支部では永年取り組んでいる活動として「文化いちき」の発行があります。平成五年三月発行の第1号は、手描きのガリ版刷りの冊子になっています。生涯学習の参加者などの名簿中心で、文化協会の組織を残しておくようにしたものです。第2号から生涯学習の成果や喜び・苦勞など会員の活躍の様子が掲載されています。この号からは印刷会社に依頼してそれなりの冊子になってきました。最近の冊子は、「随想」「学ぶ楽しさ」「郷土の歴史・伝承文化」「いちき串木野の若い芽」の四部門を中心に編集しています。原稿依頼からデータの打ち込み、校正など編集委員の頑張りで行われており、令和元年度で第28号に達しました。市来支部の加盟団体二十四団体と少なくなってきましたが、伝統芸能団体の活動と同じように地道に息長く冊子作りに取り組み、会員、地域の力になるものとの思いで活動が続いています。



最新号表紙



10号記念号表紙



2号手描き表紙

文化活動

鹿児島市市民カウンター前

シールドアート企画

鹿児島市芸術文化協会 岩田 壽秋

コロナの感染対策で始めたシールドですが、同時に人と人が分断されがちな印象を与えています。本企画は分断ではなく、裏表から共有の体験をしようとして試みるものです。

パリ留学時にグレー村オテルシビオンの黒田清輝のいた部屋に滞在しました。ある朝ロワン川の水面から霧が立ち上り迎る朝がありました。異国への留学中であって、更には黒田氏のもとに伺ったような、時間と空間を飛び越えた感覚の中で立



ち込める霧の中から御来光に照らされました。この作品はその体験を基に描いたものです。

帰国してからも光は身近にありまして常に啓示を頂き、建築の仕事のなかでも、西日対策として窓に木漏れ日を描き、皆様に喜んでいただいています。

作品発表の場を与えて頂き、関係者の方々には深く感謝しています。ありがとうございます。

コロナ禍の文化協会

奄美市文化協会 会長 境 賢勇

世界的に猛威を振るう新型コロナ感染症の拡大は「文化」にも危機的状况をもたらした。

県文化協会総会、大島地区文化協会連絡協議会総会が開催できず、文書決裁議決となる現状で、各市町村の文化祭、体育祭、夏祭り、各集落の年間行事も軒並み中止である。

奄美市文化協会総会も五月開催予定がマスク着用と三密を避けながら、七月の開催となった。各活動、研修会も中止となる。

奄美大島は、国、県、市町村指定の郷土芸能無形民俗文化財など多くありますが、龍郷町の「シヨチヨガマ」、瀬戸内町の「諸鈍シバヤ」、油井の豊年踊り」等々が中止の状況であります。

コロナ禍の中、令和三年十月開催

予定の『県民文化フェスタinあまみ』へ向けて、文化協会の各団体は独自の工夫を凝らし、練習に励んでいる次第です。

新型コロナの終息が一番の願いである。現実を受け止め、文化活動の灯を消さぬよう、新しい生活様式の下で、地道に活動を継続してゆかねばなるまい。



コロナ禍の

『集まって鑑賞』ではなく『文化を届ける』『人のやさしさプロジェクト』

南さつま市（加世田・大浦・笠沙・坊津・金峰）文化協会 会長 川野 秀哉

新型コロナウイルス感染が拡大し、会議も開催できず想いを伝えることも難しく、何より会員の活動そのものが奪われていきました。

そんな折「年寄りばかりで会員も減り活動も出来ないのでは、この際解散しようか」などの話しも耳にするようになりました。

そこで役員一同で思案したのが「人のやさしさプロジェクト」でした。「こんな時に文化芸術？以外の外！」というような風潮がある時だからこそ「人に感動してもらいたい、人の想いに心を馳せたい、人にやさしくありたい」と願う私たち文化を愛する者が、コロナで苦しくつらい思いをされている病院・福祉施設等に入院・入所している方々、支えておられるス

タッフの方々に「手作りマスク」「応援メッセージDVD」をお届けしようというものでした。

市内各文化協会（大浦・笠沙・坊津・金峰・加世田）加盟団体に呼びかけ、手作りマスク千枚を製作しました。眠っていたミシンを引つ張り出し、自宅で作った方、

密にならないよう間隔を空けて集まり作られた方々など様々に工夫を凝らして製作してもらいました。

応援メッセージは、「家族や愛する人にも逢えず懸命にリハビリや病氣と闘っている入所者・入院患者の皆さん。：（中略）必ず笑顔の明日がやって来ます。乗り越えようみんなで一緒に！」などのメッセージの呼びかけに始まり、

ダンス・舞踊、絵画・書を書き上げるパフォーマンスを音楽に乗せ映像を製作しました。

市コロナ対策本部をとおして市内三十二施設に配布し、配布先から「心のこもった素敵な贈り物ありがとうございます」と「コロナ

一色の不安なご時世、温かいお気持ちにふれ感謝・感激です」などのメッセージをいただき、やわらかい視点で人の心に寄り添える文化協会の面目躍如と考え、私たちが自身が心温かくなれたような気がします。



会員による手作りマスクとメッセージ



「応援メッセージDVD」作成の様子

文化活動

今こそピンチはチャンスに

鹿屋市文化協会 鹿屋吟道会 上熊須 晃

新年早々より始まった連日の新型コロナウイルス関連報道に、先の見えない不安な毎日を過ごしています。四月七日には、緊急事態宣言が発令され、私たちはいよいよ肝を決めて感染防止策を徹底し、自覚ある自粛要請を強いられる事態となりました。

しかし、発想を変えてみるとこんな時代に遭遇した私たちは、人類史上稀にみる貴重な存在と言えます。

この度の自粛要請をプラス思考で突然降って湧いた休暇と受け止め、二度とないこの貴重な時間をどう過ごすか。今しかできない、今だからこそやるべき何かがあるはずで、それまでの自分を見つめなおし、新しい生き方を発見するチャンスとなることは間



違いありません。私は詩吟の指導者としてこの長期戦の日々をどう過ごすか。腹式呼吸をして、肺の喚気をするところが感染症に有効であるという心強い説があります。「今こそ詩吟」三密を避けての「青空詩吟」爽やかな朝の空気を腹一杯吸って、思い切り声を出す。散歩中の人も一緒

に加わる。まさに吟道普及にもつなげる「ピンチはチャンス」であると言えます。吟道普及が厳しい昨今、コロナ問題が重なりますます困難な状況下ではありますが、この難局を乗り切って、必ず訪れる終息の日に向け、お互い前向きに進んでいきましょう。

それでも私たちは歌いたい

奄美市文化協会 名瀬市民合唱団 金井 百合子

収束の見通しがたたないコロナ禍は奄美にも及び、三月に計画していた「初めての試みによる教会コンサート」をも中止に追い込んだ。

一日も早く活動を再開したい。みんなと一緒に歌を歌いたい。その思いがようやく叶い、本格的な練習が再開したのは六月に入ってからのことだった。以来、私達はコロナ対策にも留意しつつ、次々と新しい曲の練習に励んでいる。指導者の熱い思いと団員達の努力と情熱は心から「合唱することの喜び」に溢れ、殆どの団員が休むことなく練習に参加している。合唱活動では『うつらない！うつさない！』をモットーにしな

がら、歌うことの楽しさを感じ合い、伝え合っている。

いま私達の目標はコロナ禍により遠のいている奄美の芸術文化活動を再燃させるべく、先駆けとなってコンサート活動を再開することである。十月中の開催に向けて目下準備中！



コロナ禍の

新しい文化協会像を目指して

NPO法人 薩摩川内市文化協会 会長 瀬尾 和敬



NPO法人薩摩川内市文化協会設立総会



韓国省寧郡文化院との文化交流歓迎会



韓国省寧郡との文化交流を終えて

平成一七年四月、合併前の一市四町四村の文化協会が統合し薩摩川内市文化協会が設立され、その際、事務局は行政に頼らぬ「文化の自主」を貫いていた旧川内市のやり方を踏襲することに決めました。

以来、文化協会としては市の主催する「芸能祭」の共催として委託業務を引き受けてきましたが、さらに文化を通して青少年の育成を柱に、市勢発展に寄与するなど新しい文化協会像を目指して、今年五月、約一年の準備期間を経て、NPO法人薩摩川内市文化協会を設立しました。

なお、建設から五五年経過した川内文化ホールが、この一二月にSSプラザ開設を機に閉館することとなり、「閉館記念芸能祭」を開催する予定であります。開催に向けて奮闘しています。

ふだん訪れる場所で期間を分けて コロナ禍の心を癒やす 「加世田まちなかアート展」

南さつま市加世田文化協会 会長 川野 秀哉

加世田文化協会では文化祭の中止を決定しました。「人々に集まってくださいとは言えない、集まって展示作業をするわけにもいかない」などが大きな理由でした。

しかし、人々が大きな影響を受けているコロナウイルス感染、不安や不信など精神的な影響も大きい中、人の心を癒す文化の力が大切であり、工夫を凝らした文化活動が叫ばれています。

それならば、「特別に集まらず普段訪れる場所で、期間を分割して展示を」と考え、鹿児島銀行（資金・会場協賛）のロビーで一団体二週間程度ずつ交代で作品を展示しようと企画しました。展示団体以外の芸能発表団体は活動PR展を同時開催します。開催時期は、十月中旬から一月末程度で予定しています。



コロナ禍の文化活動

オンラインバレエレッスン開始

いちき串木野市文化協会 日高千代子バレエスタジオ

春の足音が聞こえ美しい桜の開花を待ちわびた三月、突然、教育委員会から小中高が休校となり、共に習い事のバレエも自粛生活に入りまして。

取り巻く状況も一変し、大受験を控えた生徒にとり、最後の目標であった五月の発表会も苦渋の決断で延期を余儀なくされ、今まで当たり前のように出ていた日々のレッスンや、舞台創作など、全てがストップしました。

しかし、レッスンは自粛できても、日々、成長していく子供達の将来の夢や未来、貴重な時間を止めることはできません。日高バレエは、二度目の休業要請が来た日より、ウェブ会議システム「ZOOM（ズーム）」で、各家庭と

教室を結び、オンラインのバレエレッスンを開始しました。

本部串木野教室より、鹿児島市内、薩摩川内、出水支部と遠く離れた生徒たちが基礎練習をリアルタイムで体験できる事は、とても新鮮で有益でした。自宅のリビングや子供部屋での画面に映し出される、久しぶりに会えた生徒の顔は、真剣そのもので、もつとバレエを学びたいという思いが伝わり胸が熱くなりました。

将来、このコロナの苦しい経験を乗り越えたからこそ、今の自分があると胸を張れるように、この体験をプラスに変えてほしい。失われた時は戻らないが、これから日々、基礎基本を積

み上げ、来年の日高バレエ創立四十周年記念公演成功を目標に教室一同で前進して行きたいと思えます。



オンラインレッスンの様子

負けないうぞ 吟声ひびく結いの島

奄美市文化協会 鹿児島吟道会 奄美支部

世界中の人たちが新型コロナ禍のトンネルから抜け出すために、私たちにできることはそれぞれの文化の仲間たちが、自分たちの現状を知り、今できることに全力投球をしたいものです。我が吟道会においても九十二歳の壮年Sさんが、人生の道しるべとなった徳富蘆花の『自然と人生』を吟じながら、克れの生涯の指針をまつしぐらに進み、生涯青春の模範となっています。

また、七十代の夫人のTさんは、癌と宣告された弟の面倒をみながら、精神的にめげずに頼山陽の述懐『十有 三春秋 逝く者は己に水のごとし』の詩吟を自分に与えられた試練ととらえ前向きに生きています。

コロナ禍の結いの島にさらに文化の薫り高く、できない事を嘆くより、できる事から始めて、自分の分野で後継者を育てながら我が使命を全うしていきたいものです。



ふるさとカルタ大会の歩み

かごしま文芸研 代表者 北山 文代
事務局 佐多 巖

平成二七年八月、第一回目の「ふるさとカルタ大会in指宿」を開催以来、第五回までを積み上げて参りました。

白水館には会場を無償で提供頂き、指宿市からも支援を受け、市内の中・高校生や鹿児島国際大学生の協力を得て、年を追うごとに充実した大会になってきています。(本年開催予定の第六回大会は、新型ウィルスの影響で来年に延期となりました。)



熱戦の様子(白水館HPより)

ふるさとカルタ大会は霧島市でも開催するようになりまし
た。(霧島国際ホテルで第三回大会を八月に予定・・・延期)
来年の正月には、ホテル・ウェルビューかごしまを会場に鹿児島市の大会も予定しています。



試合直前の雰囲気(同HP)



ふるさとカルタのルールブック

「かごしまふるさとカルタ」は、県内全域の話題を織り込み、楽しく遊びながら郷土を学んでほしいと願っています。コロナ禍の下、参加者の健康に十分配慮しながら開催する可能性や手立てについて、模索しています。

新加盟団体の紹介

身近な歴史的遺産の田の神石像 (タノカンサア)

田の神を守る会 会長 八木幸夫



田の神様は、鹿児島県や宮崎県の一部の旧薩摩藩領に江戸時代中期から伝わる民間信仰で、五穀豊穡や子孫繁栄の神として祀られてきました。表情豊かで手にはメシゲ(シヤモジ)や椀などを持ったものや、厳かに両手で笏を持ったものなど多彩であります。私は、約十年間にわたりこの田の神石像について調べ歩き、三冊の本にまとめております。過疎化が進みます進む農村部で埋もれつつある田の神を、身近な歴史的遺産として何とか守っていききたいという思いで「田の神を守る会」をたちあげました。

田の神石像の誕生については、紫尾山系を中心とした山岳仏教を背景に作製された仏像系の田の神と、霧島山系の新燃岳の大噴火からの復興のシンボルとして作製された神像系の石像の二つが主流と考えられています。初め抽象的で静止的な仏像系と神像系として出発し、仏像系はやがて僧型そして旅僧型へと具体化し、神像系は神職型に

(著書)

『田の神石像・全記録 南九州の民間信仰』2018年

『由緒ある田の神石像の数々』2019年

『田の神誕生のルーツを探る』2020年(印刷中)

新加盟団体の紹介

劇団「夢飛行プロジェクト」

代表者 立棒 雅也
(霧島市隼人町)

当劇団は、一九九四年に医師の立棒雅也がリハビリテーションを兼ねた演劇療法の一環として設立しました。ダンスや歌の好きな子どもたちを中心に〇歳から八十歳までの劇団員で構成されています。

① 地元民俗芸能の顕彰

② 若手人材の育成

③ 海外との国際文化交流

の三本柱で活動を展開しており、代表の立棒雅也はこれまでにカーネギーホール（アメリカ）、シドニーオペラハウス（オーストラリア）、ベルサイユ劇場（フランス）、その他に台湾、韓国、中国、ニューカレドニア、ドイツ、スペイン、ポーランドなどで舞踊劇を披露し好評を博しました。

これまでの作品

○ 民話ミュージカル「ヒトムスメとその弟」

○ ミュージカル「ダンスの鉄人」

○ 戦国ミュージカル「阿南く愛は時空を超えて」

○ 創作ダンス「ジャポネスク今昔」

○ 「ザビエルに出会った薩摩人」(振付担当・出演)

○ 「忘れられた少年」(振付) など多数

二〇〇一年 「カーネギーホールチャリティフェスティバル」にて創作ダンス「ジャポネスク

今昔」を発表し大好評を博す。

カーネギーホール館長アイザック・スターン氏より感謝状(証明書)を受ける。

二〇一五年 ミラノ国際博覧会日本館イベント広場にて、最高顧問に原口泉会長を迎え「日本風今昔」南九州薩摩(特に旧島津領)の民俗芸能(特に食育)の変遷を企画演出出演。

二〇一六年 国交樹立十周年記念「第十会日本モナコ芸術祭」舞台部門、モナコ公国テアトル・デ・ヴァリエテにて舞台公演、モナコ公国文化庁より芸術創造賞褒賞。



上「ジャポネスク今昔」より“修羅の花”
下 ミラノ国際博覧会 日本館より



舞踊劇「戦国Satsuma」シリーズ

新役員紹介

西野 実 (南薩地区理事)

(指宿市文化協会 事務局長)



尊敬する原口会長のもと、微力ながら尽力できる機会を得て光栄に存じます。

『文化祭をやるだけが文化協会ではない』と意見され、高度成長に合わせて会誌発行、視察研修、地域イベント参加等の組織活動の幅が広がりました。しかし、少子化と低成長時代に入り、日本舞踊や生け花教室等、子どもや年頃の女性に敬遠されるのか、会員は減少し全盛に比べ侘しく感じる、地域の文化協会の側面です。

翻って指宿の場合、フラダンス発表会は文化祭の市民会館舞台に限りません。「フラフェスティバル」ではJR指宿駅前や砂蒸し会館広場で「街角フラ」として賑やかに披露され、文化協会に加入しない同好会も踊ります。その文化愛好者を組織へ勧誘する事に悩まされます。

令和の文化協会新時代、互いに多様性を認め温故知新で前へ進みましょう。

清乃本 勝穂 (北薩地区理事)

(NPO法人薩摩川内市文化協会 事務局長)



この度、瀬尾和敬理事に代わり、北薩地区代表の理事に就任致しました。

県文化協会も昨年創立五十周年を迎え、これまで先輩たちが築いてこられた功績と伝統に感謝し、さらなる発展のために微力ながら尽力させて頂きたいと思えます。よろしくお願いたします



復元された鶴丸城御楼門

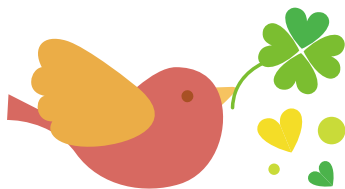
野邊 美代香 (文化V・多分野理事)

(鹿児島県連合華道会)



今回、はじめて理事というお役を仰せつかりました。

地方での文化協会の活動内容等につきましてはある程度理解しているつもりですが、県の協力のことは全くわかりません。しかしながら、文化という意味を鑑みて、鹿児島県の文化を育て継承していくために全力を注ぎこむことの大切さを実感しています。いけ花ひとすじ五十年。文化の薫る鹿児島であってほしいと願う一人でございます。



文芸・作品コーナー

串木野川柳会 いちき串木野文化協会

付き合った人のその後を風に聞く

羽島・萬福平次

出所して婆婆の冷たい風を受け

吉田町・津曲幸水

父の日の食事会費も父が出し

島平・塩屋寿音

倦怠期家内の着替え見たくない

生福・石野蟹籠

子を産んで初めて解る母の愛

平江・満留小鶴

おれの恋いつものことで片思い

平江・井之上一洋

年を取り化粧代わりにマスクする

平江・本ゆう花

串木野狂句会(くらげ) いちき串木野文化協会

焼酎ん無か 郷中ん寄合には 女房をやつ

生福・石野蟹籠

上手じ飲めば 焼酎も加勢すい 出世街道

島平・塩屋寿音

子が看らじ親あごろいと施設ち入つ

羽島・萬福平次

素手で来た 友人しよば欲張 女房が叱つ

平江・井之上一洋

革靴で 収穫加勢ん 街の婿

吉田町・津曲とつこ

痛か膝 ゴルフん時な け忘れつ

平江・満留小鶴

監事奴 計算しいしい 焼酎を出つ

島平・東お京

新か着物 着替えた時にゃ 夕立ち遭つ

平江・本ゆう花

薩摩郷句 鹿屋市文化協会渋柿会鹿屋支部

リハビリん専念つどんどん病も癒なつ

有川南北 (汪)

農作業疲れた身体にや二合ん焼酎

西浦大器 (第記)

髭社長も女房ん言ないの弱虫

中村白浪 (辰郎)

診察の前い疲れくだ待つ時間

永田紀子

村祭り青年が足らんち子供が加勢

倉美和子

桜島ん灰あどつち流つとか空を見つ

太田太陽 (陽子)

客つが来つ化粧を直そち騒動ん女房

中野検索 (健作)

断捨離ん最中で萎えた俺が気力

福島篤丸 (篤紀)

甘もみつな凄えか事じゃコロナ騒動

前之園信子

青年ぶゆば上ぐち似合わん顎ん髭

福園放電 (力)

鹿屋市吾平町文化協会



「収穫」山口 一男



「夏の詩」寒水 真実子



「美里吾平イメージキャラクター“うがやくん”」川枝 由美子



天秤宮(詩とエッセー)

海と大陸と人間と

八瀬生見

その昔大陸と海があらそったのだった
海が大陸を呑もうとすると
大陸はそれを阻んだのだ
呑もうとしそれをのがれようとして
あらそいはくりかえされた
海が幾速もの白い牙をむいての体当たり
大陸はそれを鉄の固さの岩で受けて立った
呑みそこねた陸が小さな島となって
海面に散らばったのだ
受けて立ちひるまず打ち当て
くりかえし幾億年たったか
さすがにつかれてあほらしくなったか
争いは中途半ばでいつかやんでいた
いつか人間が大陸に現われ少しずつふえて
海のあることに気がついた
大きな海と散らばった小島への
好奇心とあかぬ欲望から

いつか大陸のすみずみから島々に
移りまとまって力を広げていった
国家をつくりその力で島々に
手を伸ばしだした
そしていつか取り合いを始めた
大陸での領地あらそいから
島々のうばいあい
かつての海と大陸のまねで
取り合いを始めた
あらそいはかつての海を大陸ほどは
なかったがお互いのほろぼしあいは
まだいや気はささないようだ
かつての海と大陸のように
うんざりしてやめることがなく
おろかさに気づかず万年近く
あらそいはやめないのだ

川のほとりで

河野 百合子

よどみなく流れゆく川
ここで先人たちは
なにを想い
なにを願っただろう
風も
空も 海も
ニンゲンも
やがてひとつに縫い取られる

魚の胃から
プラスチック片が見つかり
自然の摂理は踏み荒らされる
遠い国の出来事だと
違う世界の話だと
打ち捨てられた小石は
冷たく水辺に静まる



こんにちは事務局です



左から、
坂中・川原・遠矢

川原 純子 (副会長 兼 事務局長)

本田前事務局長の後を受けて、二期目の副会長職の途中で事務局長との兼務を仰せつかりました。これまで県内各地の多くの合唱団とのご縁をいただき、文化協会で活動させていただく中で、突然の大役を引き受けることとなりました。

コロナ禍で新たな作業も増える中、心強い坂中事務局業務職員と遠矢文化振興推進員のご協力を頂きながら、会員の皆様のお役に立てるよう頑張っています。

近くにお越しの節はお立ち寄りください。語りましょう。お茶と笑顔がお待ちしています。

坂中 慈子 (事務局業務職員)

3月末から事務局業務を仰せつかっております。鹿児島県の素晴らしい文化に触れるとともに多くの方との出会いを通して貴重な経験をさせていただいていることに感謝しています。川原事務局長をはじめ、遠矢文化振興推進員、役員の方々からご指導をいただきながら、楽しく勤めさせていただいています。現在、音楽療法士として子どもや高齢者の福祉施設等で活動しているため、週2～3回の事務局勤務となりますが、鹿児島県の文化振興に微力ながらお役に立てるように励んで参りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

遠矢 貴 (県文化振興課文化振興推進員)

市町村文化協会や県内の多くの文化芸術団体が加盟している鹿児島県文化協会は、総合的なイベントや県内の文化振興を進めていくうえで、大きな存在です。多様な分野の人材や文化芸術団体、関係機関などと手を携えながら、文化振興を推進できるプラットフォームのような役割を担えると思います。文化芸術に親しむ人が一人でも多く増えるよう微力ながら、少しでもその支えができるよう努めたいと思います。どうぞ、よろしく願いいたします。

お気軽に
お立ち寄りください。



事務局だより

鹿児島県文化協会のリーフレットができました！

会長あいさつ、沿革・目的と事業、近年の主な活動、加盟団体、賛助会員の募集など、“A4三折りサイズ”にまとめてあります。



6月末に各文化協会、文化団体、賛助会員様へ送らせていただきました。ぜひ、ご活用ください。

賛助会員を募集しています

○鹿児島県の文化振興並びに文化活動を支援していただく団体や個人の賛助会員を募集しています。

団体 1口5,000円～/年 個人 1口3,000円～/年

○賛助会員の特典

- ・ 機関誌「文化かごしま」の謹呈(年2回)
- ・ 機関誌「文化かごしま」及び県民文化フェスタパンフレット等へのご氏名の掲載
- ・ 県文化協会主催行事へのご招待

○お申し込み方法

- ・ ホームページから申込書をダウンロードし、ご記入の上郵送またはFAXしてください。
- ・ お電話でも受け付けています。
- ・ 会費は次の口座へお振り込みください。
 - ゆうちょ銀行 記号 17880 番号 06875041
 - 鹿児島銀行 県庁支店 普通 921457



ご協力
よろしく
お願いします。

県文化協会へ 後援申請が できます。

- 加盟団体が主催するイベントの後援申請ができます。申請は、ホームページからダウンロードするか、事務局(099-223-3123)にお問い合わせください。
- 後援するイベントは、当協会ホームページに掲載されます。

新型コロナ ウイルス 関連情報

- 「新型コロナウイルス感染予防ガイドライン」や関連情報を、当協会ホームページに掲載していますのでご覧ください。文化庁、厚生労働省、文部科学省の情報も紹介してあります。

助成団体 募集の案内

三菱UFJ信託地域文化財団

- ホームページの「更新情報・お知らせ」のコーナーに出ていますので、ご覧ください。
- 申込期限 令和2年11月30日(月)まで 消印有効
- 提出先 〒103-0027 東京都中央区日本橋2-2-4日本橋ビル (公財)三菱UFJ信託地域文化財団 事務局

賛助会員

(令和2年9月20日現在)

ご支援ありがとうございます。

【団体】

野辺ひふ科クリニック

詩吟朗詠錦城会鹿児島県本部

鹿児島筑紫会

日高千代子バレエスタジオ

いちき串木野夢サロン

引坂ピアノ教室

女声合唱団コールあじさい

かごしまたのしい唱歌教室

【個人】

平島 義仁

岩根 康子

最勝寺 良寛

中村 耕治

島本 保子

辻 三男

本村 錦香

森山 陽子

上山 貞茂

酒匂 卓郎

吉留 厚宏

鶴丸 明人

川原 健司

古市 裕美

本村 ヒロ子

山元 黎子

岩重 仁子

宮之原 加代子

徳重 浩山

園田 豊

下鶴 隆央

田畑 浩一郎

成尾 信春

西村 協

前原 慰

松里 保廣

向井 俊夫

柳 誠子

池畑 憲一

大久保 博文

田中 良二

迫口 幹子

野元 誠二

前田 久恵

松清 秀一

吉井 浩一

堀之内 芳平

※ 順不同、敬称略

日高千代子バレエスタジオ



バレエを通して
素敵な人間創りを目指します。

本部・串木野、伊敷ニュータウン、川内セントピア、
出水横尾自治教室 TEL0996-32-8476
HP : <http://sky.geocities.jp/hidaka819/ballet/>

医療法人 野辺ひふ科クリニック

診療時間		
曜日	午前	午後
月・火・水・金	9:00~12:30	14:00~17:30
木・土	9:00~12:30	休診

休診日 / 日・祝日



〒896-0026 いちき串木野市昭和通 34 番地
TEL・FAX 0996-33-0250



(一社) 詩吟朗詠 錦城会

鹿児島県本部
本部長 本村 錦香

〒890-0012 鹿児島市玉里町 10-6
事務局 TEL099(226)4163
FAX099(224)3479



女声合唱団 コールあじさい
川原 純子

編集後記

広報部長 福園 力

「文化かごしま」第百二十号をお届けします。今回は、コロナ禍のため例年とは違う編集方法をとりました。

まず、七月十六日の三役会で編集方針を決め、従来の内容に特集として「コロナ禍の文化活動」を加えました。

七月中に第一回広報部会を電話連絡で実施し、八月初旬、各団体に原稿募集の依頼文を送りました。

九月三日に、第二回広報部会を「サンエールかごしま」で開催し、ページの割付、照合作業等の編集を行いました。その日は、離島在住の広報部員は参加を見合わせました。

九月八日、南日本出版社の担当者との最終打ち合わせ後入稿し、その後三回の校正を経て送付作業となりました。

今回、コロナ禍のため異例の編集作業となりましたが、原稿をお寄せくださった、多くの皆様に感謝いたします。

また、事務局のお力がなければ、今号は発行出来なかったと思います。ありがとうございます。心を一つにコロナ禍を乗り越えましょう。

広報部

福園 力 (鹿屋市文化協会)
河野 洋子 (錦江町文化協会)
西野 実 (指宿市文化協会)
有留 常夫 (南種子町文化協会)
境 賢勇 (奄美市文化協会)
山之内 赫子 (鹿児島県俳人協会)

鹿児島県文化協会

〒892-0816 鹿児島市山下町5-3 宝山ホール2F
電話&FAX 099-223-3123
kabunkyou@yahoo.co.jp ka-bunkyou@po.minc.ne.jp

HP

